

2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	運営理念は4項目あるが「利用者主体」の思想を具現化しており、地域の中でその人らしく暮らせることを目指したものになっている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	運営者・管理者のホームに対する思いが中心となっており職員もそれを受けて日々実践に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地区自治会にも加入しており、地区の神社の祭りやホームの「夕涼み会・忘年会」などで近隣の人々との交流が行われている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価・外部評価に対して運営者・管理者は積極的であり職員にもその意図が伝わっている。		

宮崎県都農町 グループホームたいよう

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	参加者からの意見の表出が増えてきており、その意見を取り入れて例えば家族会の結成につながっている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	行政との日常の連携は少ないようであるが今後は機会を増やす意向である。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	来訪された時を利用して情報交換あるいは報告をしている。		「グループホームたより」は家族や地域への情報発信や意見交換の機会を増やすことにつながると考えられるので、是非早期作成が望まれる。既にかなり具体化しているとの話はうかがえた。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情や不満は現状では余り無いようであるが、今後は家族会等で意見を出される機会の増加を考えている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	基本的に異動は最小限に控えているし、離職の場合は利用者へのダメージを防ぐように引継ぎに時間をかけている。		

宮崎県都農町 グループホームたいよう

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	全職員を研修に積極的に参加させ、結果は会議で報告し全員で共有している。		全体的に見られる傾向であるが資料保存やデータ記録はしっかりしているにも関わらず、書式が不十分であることで整理や次回への活用がしにくい。例えば研修の復命書などの様式を準備すれば、その後の活用により役立つものと思われる。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	該当地区ブロックにおける同業者間のネットワーク作りが不十分であり定型的な会議が行われるのが現状である。運営者がブロックの実行委員として活動している。		より積極的に同業者ネットワーク作りに努力されることを期待したい。
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用開始前にホームに遊びにきてもらったり、デイサービスの顔見知りの人とのつながりを大事にするなどの工夫をしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の「できること・できないこと」を見極め、共に行うことで喜びを分かち合うようにしている。また、利用者の話に耳を傾け笑いあう時間を大事にしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントをしっかり行い、また、一人ひとりに話を聞き本人の希望や思いを知るように心がけているが、意思表示困難な方の支援は難しい場合もある。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	アセスメントシートは綿密に記録しており、本人・家族の希望の聞き取りやケア会議で職員の意見も取り入れて介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3か月に一度の見直しを行っている。毎日会議で利用者1名を対象に、全員でカンファレンスを行っている。さらにケア会議での職員の意見収集や本人・家族とも話し合い新しい計画を作成している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人の状況に合わせて通院や墓参りの支援をしている。また、レントゲンの受診を近隣の人々にも声かけして行うなど、地域への広がりを考え柔軟な支援を行っている。		

宮崎県都農町 グループホームたいよう


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の納得の上で協力医療機関と関係を築き適切な医療支援が受けられる体制ができている。また、月1回の往診が行われている。内科以外については以前の掛かりつけ医への受診を支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	早い段階での具体的な方針は決めていないが、契約の際に「できること・できないこと」を家族や本人と話し合っている。		重度化や終末期にむけての対応については今後明確にできるよう体制づくりをされることを望みたい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報取り扱いをしていない	日常の声かけや対応は十分に本人の誇りやプライバシーを尊重するようにしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の意見を尊重しペースに合わせるような支援をしている。意思表示のできない方の場合は職員で課題として取り組む姿勢がある。		

宮崎県都農町 グループホームたいよう

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	料理の下ごしらえや味付け等職員と一緒にいき、同じ食事を皆で楽しんでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は毎日実施している。午前と午後の選択は利用者の意向を尊重している。更衣室の温度調節や安全面にも工夫がされている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	料理・裁縫・掃除・カラオケ・買い物などできる限りの支援をしている。訴えのない方の場合は難しさを感じているが、職員が課題として取り組む姿勢がある。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買い物・墓参り・初詣・近隣の神社のお祭り・散歩などできるだけ屋外に出ることを心がけている。また、地域のカラオケ教室へ毎週送迎する等、一人ひとりに合わせた支援の体制がある。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけないケアが行われている。		

宮崎県都農町 グループホームたいよう

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災や地震の場合に地域の人々との協力関係や連絡体制などとおりのマニュアルがある。運営者の家族が近所におり、この方々の協力も得られている。		夜間に火災や地震が発生した場合に備えた、より具体的なマニュアル作成を職員と共に作成されるよう期待したい。また、具体的な避難方法を取り入れた訓練を望みたい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	同じ献立で一人ひとりの状態に合わせて、とろみをつけたり、刻みを入れた調理の工夫がされている。食事量・水分摂取量の把握など細かく支援がなされている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	明るく落ち着いた雰囲気を出している季節感のある飾り付けや心地よい音楽を流すなど十分な工夫がなされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の品物や家族からの心遣いを思わせる調度や写真・ぬいぐるみなど好みのものが置かれており、居心地よく過ごせる工夫がみられる。		

※  は、重点項目。